

どのような願いが書かれているのでしょうか。(2学年廊下 7/7)

今日は七夕です。「この日って晴れたことがあったのかな。」どんよりとした梅雨空を見上げても、なぜか心がふさぎ込まないのがこの日の魅力です。

学年の廊下に3本の笹竹が置かれました。そこには、生徒たちの願いが書かれた短冊が揺れています。「〇〇がかないますように」—個性あふれる手書きの文字が、色とりどりの短冊に散りばめられています。その1枚をそっと手に取り願いごとを読み、あの子らしいとふっと微笑んでしまいます。

自分が何を思い何を達成したいのか。願いを書くことは自分の今を見つめることです。時空を超え宇宙も想わせる七夕。この日の願いは飛躍しても誰もが笑顔で許してくれそうです。

コロナ禍の不安が続く中、九州地方では水害による甚大な被害が発生しています。その報に接し、決して他人事ではないと実感します。

眼の前の生徒たちに当たり前の日常が続き、願いの実現に向けて努力を重ねていける日々が続くこと—七夕の日に私たち教師や親が抱く大きな願いです。

## 七夕の願い

# 中学生とスマホ

中学生の生活を考える上で、反社会的な行動を伴う非行などから、不登校や高機能自閉症など個々の生徒の内面に関わる問題へと、いつ頃からかその解決すべき課題の中心が変化してきました。そこに新たに加わってきたのが「ゲームやスマホ」の問題です。

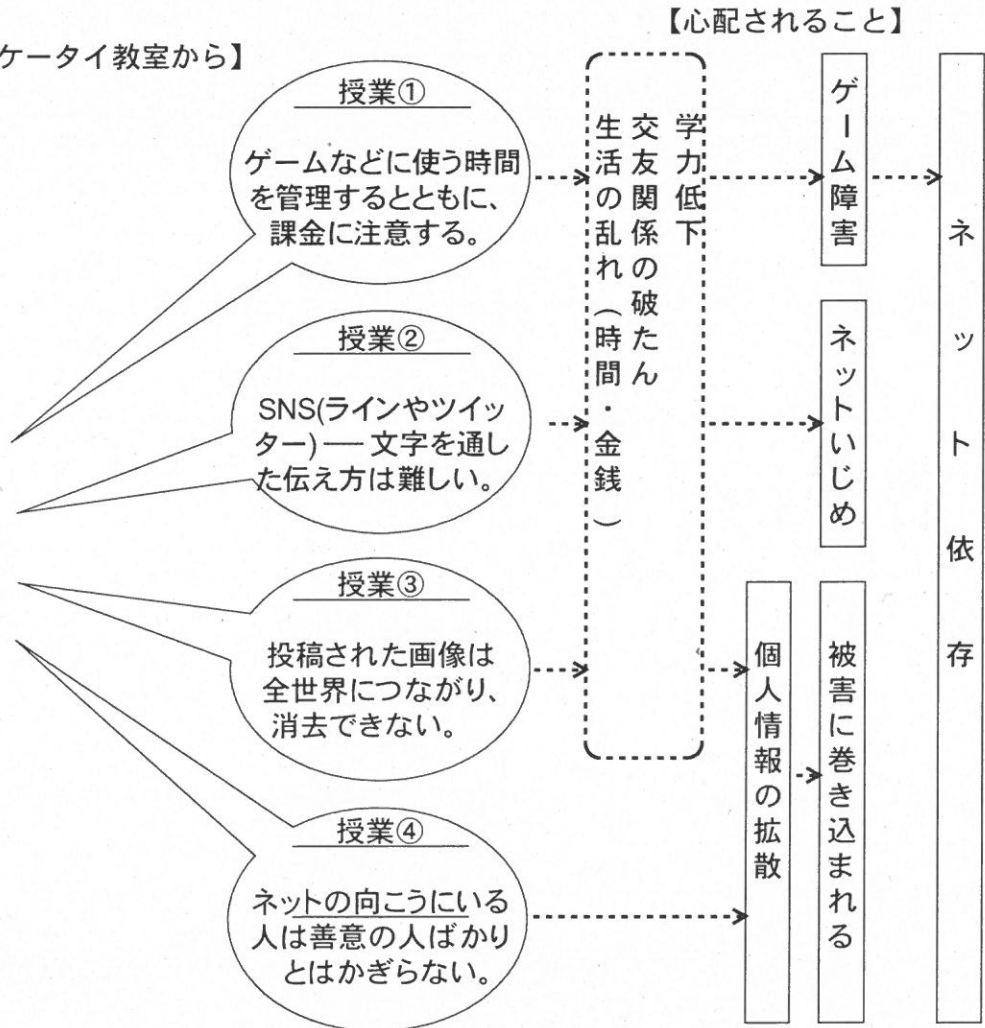
本校では、これまでアンケート調査を実施し、ケータイやスマホの所有状況や使用時間の現状について調べてきました。また様々な機会を通して啓発活動を行い、ゲームや SNS などの現状や問題点について注意を喚起してきました。最近では、マスコミでも「ネットいじめ」や「ネット依存」「ゲーム障害」といった言葉が頻繁に取り上げられ、過度な使用に警鐘が鳴らされています。

スマホはこれからの社会を生きて行く上で必要不可欠なツールです。その使用のスキル(能力)を高めていくことにより、上級学校での学習や将来の仕事にとって大きな武器・味方となり恩恵をもたらします。それを承知の上で、保護者として考慮すべき点がたくさんあるように思われます。子にいつスマホを持たせるか、持たせているならばどのような使わせ方をさせていくか、熟考する必要があるのではないのでしょうか。本通信でも「ゲームやスマホ」について見つめていきたいと考えています。

## 【過去のスマホ・ケータイ教室から】



Mr.Second



## 【学年目標】

- 自ら判断し行動できる生徒
- 自ら学びに取り組む生徒
- お互いの良さを認め、思いやる気持ちを持てる生徒